

単位時間の基本過程

まとめ	学習	自学習	課題把握	段階
まとめ	深める	調べ	課題をつかむ	主な学習内容・活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の練習</li> <li>・次時の学習の予想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点、要約、感想のノート</li> <li>・文脈に即した語句の意味や役割</li> <li>・感想や意見の発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な語句や文</li> <li>・わからない語句や文</li> <li>・書きこみとノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習の確認</li> <li>・本時の学習範囲の確認</li> <li>・感想や疑問の話し合い</li> <li>・読みのめあての確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人調べ</li> </ul>

※ 低・中・高学年の発達段階による位置づけを考慮する。

(2) 単位時間の基本過程  
 自力学習と集団学習を重視して、四段階の基本過程をとったが、常に固定化するのではなく、指導の展開により弾力的に扱うようにした。

- 要点のおさえ
- 文脈に即した語句指導の視点から、重要語句、指示語、接続語、文末表現などの位置づけ
- その他、写真、絵、図表、動作化などの配慮事項

(3) 授業を組み立てるにあたって

- ① 学習課題の設定  
 児童の発達段階、教材の取り扱いはなどから、一概にパターン化はできないが、実践を通ず中で、  
 ・題名読みからの予想や問題  
 ・全文通読からの感想や疑問  
 ・前時の学習から残された疑問  
 ・本時の学習の冒頭段落を読んでも、児童の疑問や知りたい意欲を大切にし、児童とともに設定する学習課題づくりに努めてきた。
- ② 自力学習と集団学習  
 児童一人一人の活動の機会を多くし、それぞれが能力に応じた読みができるようにしたいと考え、自力学習（一人調べ）を意図的に取り入れた。  
 また、一人調べで読みとったことを集団で練り鍛え、より深められるようにした。
- ③ 書き込みとノート指導  
 自力学習とのかかわりを重視して、文章への書き込みやノート指導を学年に応じて充実するようにした。
- ④ 音読指導  
 語句を大事にし、抵抗なく文章を読むことをめざし、指導過程への効果的な位置づけを考慮して指導に努めた。
- ⑤ 評価  
 事前テスト、事後テスト、形成

(4) 文脈に即した語句指導の実際  
 的評価、児童の自己評価、感想など、指導に生かすよう工夫した。

資料 カプトガニ（四年）

このカプトガニは、実は **大きなひみつ** を持っています。それは、カプトガニが、**二億年ものむかし** から、ほとんど形を変えなくともなく生きつづけてきた動物だということです。二億年前というと、人類は **もちろん**、けものも、まだこの地球上にあらわれていません。キョウリユウや鳥の祖先の始祖鳥が栄えていたころです。 **こんなにも長い間**、子孫をたやすことなく生きつづけてきた動物は、今ではほかにあまり例がありません。それで、カプトガニは、「**生きている化石**」ともいわれ、住む所によつては、天然記念物に指定されています。

資料は、光村図書四年上「カプトガニ」の第三段落の文章である。  
 この文章では、第一段落にある「**めずらしい動物**」という言葉を変えて、「**大きなひみつ**」と結びつけて、より豊かにイメージ化させようとした。

単なる「ひみつ」でなく、「**大きなひみつ**」であることを、「**二億年ものむかし**」「**ほとんど形を変えることもなく**」「**生きつづけてきた**」などの語句とのかかりで思考させ、読みとらせた。

また、「**二億年もの**」とか「**こんな**

にも」という表現から、人類はもちろん、けものも地球上にあらわれない、とほうもない「むかし」であることを読みとることができた。

子どもたちは、「子孫をたやすことなく生きつづけてきた」という表現に出合ったとき、「**すごいなあ**」という感想をもらし、「**めずらしい**」という言葉の重みを実感としてとらえたのである。そして、「**生きている化石**」といわれるゆえんや「天然記念物」に指定されている意味も無理なく読みとることができた。

以上のように、語句を関連的に読む中で、子どもたちは、辞書的な意味を越えた解釈を持つようになってきている。このような学習をおして、子どもたちの思考活動をうながし、感動的な読みと一緒に、確かに読みとる力を高めようとしてきた。

学ぶ喜びは、関係的な読みとりの中での思考活動と、新しい発見の中から生まれてくるものであり、文脈に即した語句指導に視点をおいた本校の研究の意図は、そこにあるといえる。

(四) 基本的な学習方法の訓練

- (1) 基本的な学習のしかたの指導  
 確かに読みとる力を育てるための学習を側面から支え、学習の効率化を図る上から、次のことを実践した。
- (2) 音読、読書などの日常実践指導